

妖怪の研究方方法

発表者：相塚松

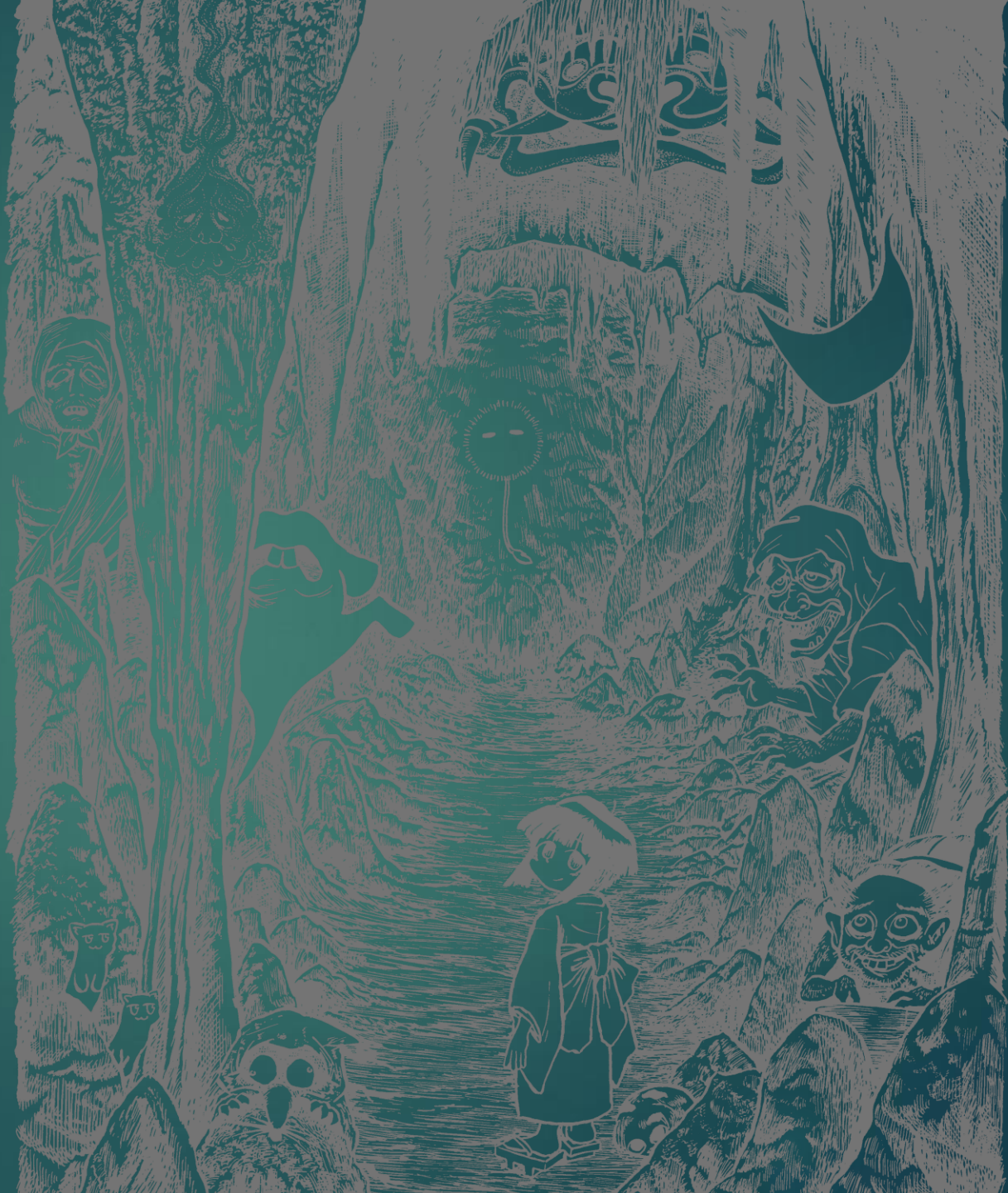
自己紹介

- ▶ 相塚松（あいつかまつ）
- ▶ Xアカウント
 - 個人：@_matu4649
 - 怪し火公式：@vrc_ayashibi
- ▶ 妖怪好き
- ▶ 境港妖怪検定 中級所持
- ▶ 妖怪好き交流所「怪し火」代表
- ▶ 絵の個展ワールド
 - 相塚松展 aitsukamatsu exhibition
 - とおの物語 一説話と伝承一



概要

- ▶ 妖怪は研究できるのか
- ▶ 妖怪に対する偏見
- ▶ 妖怪とは何なのか
- ▶ 妖怪を研究するには





妖怪は研究できるのか

妖怪は研究できない？

京極夏彦

“妖怪”をテーマとして研究する学問などは、ないのです。

『妖怪の理 妖怪の檻』(KADOKAWA、2017)

妖怪は研究できない？

▶ 京極夏彦の分析

- 「妖怪」は正確には定義化できない
- 様々な分野で「“妖怪”的なモノゴト」を扱った研究の成果が「妖怪研究」と見なされているだけ

▶ 妖怪は研究不可能？

妖怪の研究

▶ 興味深い2つの研究動向

- 国際日本文化研究センター「**日本における怪異・怪談文化の成立と変遷に関する学際的研究**」(1997年10月～2001年3月)
 - 「怪異・怪談あるいは怨霊・妖怪文化」を主な研究対象として、「文化史的観点に立ち」、「多面的・学際的に分析」、「総合的・立体的な把握」を通して、「真正面から考察」することを目的とした共同研究会。
- **東アジア怪異学会**(2001年～)
 - 歴史学的な専門用語としての「怪異(怪異)」をキーワードにして、学際的な研究を行っている学術団体。

妖怪の研究

- ▶ 妖怪に関連した様々な論文が世に出ている
- ▶ それらがまとめられた代表的な書籍
 - 小松和彦編『**怪異の民俗学**』シリーズ全8巻(2000～01年)
 - 小松和彦監修『**怪異・妖怪学コレクション**』シリーズ全6巻(2025)

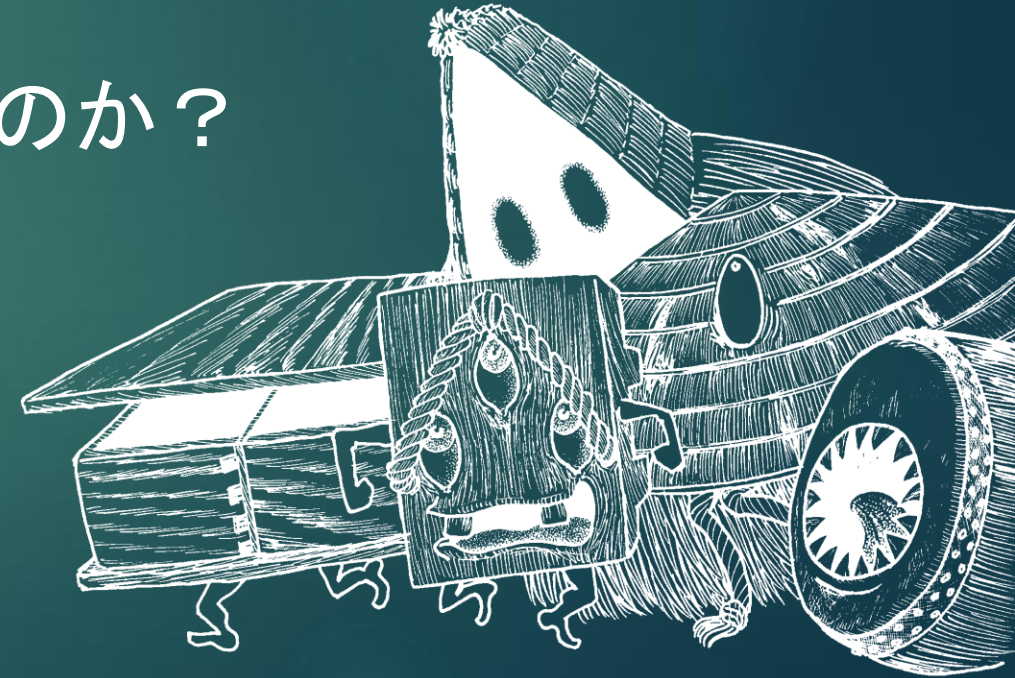


妖怪の研究

- ▶ 様々な分野でそれぞれに研究されている“妖怪的なモノゴト”の研究成果を抽出し、すり合わせる格好で「妖怪」を多角的に捉えていく場が用意された
- ▶ 「妖怪」という概念を前提に据え、総合的・学際的な研究として「妖怪研究」を行う試みが盛んになった

妖怪の研究

- ▶ 妖怪はどうやらやり方次第で研究できるものらしい
- ▶ 妖怪はどのように研究すればよいのか？



妖怪に対する偏見

妖怪にまわりつく偏見

京極夏彦による分析

- ▶ 「妖怪」は主に以下の思い込みがなされている
 - 妖怪は“**前近代的**”な概念である
 - 妖怪は“**通俗的**”なものである
 - 妖怪は“**民俗学**”の専門である

妖怪にまわりつく偏見

- ▶ 実際、この無関心・否定的な思い込みによって、妖怪は様々な研究分野においてあまり重点的には取り扱われていなかった
- ▶ 妖怪を専門的に研究で取り扱おうとする試みは近年になってようやく進んだものである

本当に偏見なのか？

- ▶ 前述の思い込みについて検討すると...
 - 妖怪という概念が構築されたのは**近代以降**
 - 妖怪は**通俗と学術の双方**で取り扱われ形成されたもの
 - 妖怪は**様々な研究領域にまたがるもの**
- ▶ 3つの思い込みはあくまで“**偏見**”だといえる



妖怪とは何なのか

妖怪の定義

代表的な研究者たちによる「妖怪」の定義

- ▶ 井上円了
 - 人知の及ばない物事
- ▶ 江馬務・藤澤衛彦
 - 主に江戸時代などに数多く描かれた“化け物”
- ▶ 柳田國男
 - 零落した神、特定の場所と関わりのある(幽霊とは異なる)あやしい物事
- ▶ 小松和彦
 - 人間に祀られていないor利益を与えない超自然的存在
- ▶ どれもバラバラで、我々の思い描く「妖怪」とは部分的に異なる



妖怪の定義

- ▶ 「妖怪」という語が指す対象は多岐にわたり、統一的な説明ができるものではない
- ▶ とはいえ、現在の複雑化・多様化した「妖怪」を前提に置いたうえで、近年に至って「妖怪」の定義はブラッシュアップされている

妖怪の定義

近年におけるいくつかの定義

▶ 京極夏彦:「**通俗的妖怪**」

- 学問上の定義とは異なる、現在我々がなんとなく思い描く妖怪のこと。通俗と学術との共犯関係によって構築された概念

▶ マイケル・ディラン・フォスター (Michael Dylan Foster):「**怪奇的で不思議なもの**」

- 「不思議(mysterious)」+「怪奇(weird)」=「妖怪」

▶ 廣田龍平:「**怪奇的自然**」

- 人々の属する関係(ネットワーク)の繋がりから逸脱するものの集合

▶ 氷厘亭氷泉:「**画像妖怪**」

- “絵に描かれた”だけの存在を指す

妖怪の定義

- ▶ 一概に「妖怪」といっても、研究目的によって何を「妖怪」とするのは変わってくる
- ▶ 妖怪を取り扱う前に、どのようにして「妖怪」が構築されていったのかを理解しておく必要がある

妖怪の歴史

従来まで定説とされてきた妖怪の歴史

- ①江戸時代、**鳥山石燕**が民間伝承に語られる妖怪を絵画化
 - ②明治時代、**井上円了**が妖怪を科学的に否定
 - ③対象・昭和戦前期、**柳田國男**が民間伝承の妖怪を全国から収集
 - ④戦後、**水木しげる**が各種情報を総合して日本中に広めた
 - ⑤**小松和彦**と**宮田登**が民俗学的な妖怪研究を甦らせ、現在の興盛に至る
-
- ▶ “妖怪は民俗学のもの”という印象は、この流れの中に民俗学者がいるため
 - ▶ 現在一般に知られている「妖怪」を辿る際、この流れは**あくまで一部分**でしかない

妖怪の歴史

- ▶ この単線的な流れから取りこぼされた動向については、在野（非アカデミズム）の妖怪研究者たちによって精査・整理されてきた
- ▶ 伊藤慎吾・氷厘亭氷泉編『**列伝体 妖怪学前史**』（勉誠出版、2021）
 - 現在一般的となった妖怪（通俗的妖怪）のイメージ形成に関わった人物についてまとめた著書

妖怪の歴史

『妖怪学前史』をもとに描かれる妖怪の歴史の流れ

▶ 近世期

- 大衆文化における妖怪の主流といえば歌舞伎・浮世絵・小説
- 鳥山石燕の画集や“妖怪絵巻”などは傍流だった

▶ 大正・昭和戦前期

- 藤澤衛彦の著作で、江戸時代の主流も傍流も統合されていった

▶ 戦後

- 「妖怪」という語を用いて民間伝承を集めていた民俗学の成果が世間に知れ渡る
- 藤澤や江馬務などが取り扱った絵画上のみの妖怪(画像妖怪)もまた伝承の付随するものとして再構築されてしまう

妖怪の歴史

- ▶ 従来見落とされてきた様々な人物・出来事が要因となって、現在の大衆的な妖怪(通俗的妖怪)の基礎が出来上がった
- ▶ 妖怪の歴史はひとまとまりの単線ではなく、**離合集散する無数のネットワークから成り立っている**
- ▶ 妖怪の歴史を記述する際は、どの部分を、どのような目的で選び取ったのかを明確にする必要がある

妖怪の研究方法

妖怪を研究するには

【妖怪そのものへの理解】

- ▶ 妖怪を研究しようとするならば、まず「**妖怪**」がどのようなもの**なのか**を把握しておくことが前提になる
- ▶ 妖怪は複雑な流れによって形成された概念であり、その**複雑なシステムを理解した上で取り扱う**ことが重要になる



妖怪を研究するには

【妖怪研究とは】

- ▶ “**総合学問**”としての妖怪研究が求められている
- ▶ 各研究分野の立場から妖怪についての研究を行い、それらを総合して**多角的に分析する姿勢**が必要となる

妖怪を研究するには

- ▶ こうした前提を把握した上で、妖怪研究は現在どのように行われているのか
- ▶ 次にその一例(ごく一部)を紹介

現在の妖怪研究の潮流

【様々な分野での研究が進む】

▶ 歴史

- 「東アジア恠異学会」の研究成果を軸に「恠異(怪異)」の概念を用いた新たな視点が得られた

▶ 文芸・美術

- 説話文学研究の多様化、絵画を含む非文字資料へ研究対象の拡大などにより、妖怪関係の研究が大きく進歩

現在の妖怪研究の潮流

【在野の研究者・妖怪オタクによる研究成果が大きく貢献】

- ▶ 非アカデミズムな人物の研究が活躍
 - 氷厘亭氷泉、式水下流、京極夏彦、多田克己、朝里樹...など
- ▶ 妖怪関連の参加自由な研究会が発足
 - 東アジア恠異学会、異類の会、怪談文芸研究会など
- ▶ 同人誌、ホームページ、ブログ、専門商業誌など、非アカデミズムの人間でも研究・考察を発表できる場所が増えた

現在の妖怪研究の潮流

【妖怪の分析方法や視点が多様化】

▶ 身体や感覚に注目した研究

- 常光徹「怪音と妖怪——聴覚と怪異現象」(2017)
- 安井眞奈美「妖怪・怪異に狙われやすい日本人の身体部位」(2009)

▶ ジェンダーの視点に基づく研究

- マイケル・ディラン・フォスター「妖怪のメディア——水木しげると口裂け女」(2017)
- 野村幸一郎『女の怪異学』(2007)

▶ 計量分析・デジタルヒューマニティーズに関連した研究

- 佐藤浩輔・中分遥「民俗伝承の計量分析」(2021)
- 鈴木晃志郎・于燕南「怪異の類型と分布の時代変化に関する定量的分析の試み」(2020)

現在の妖怪研究の潮流

【国際的な展開】

- ▶ 「妖怪」に関連する海外の概念(怪物、驚異など)との比較研究
- ▶ 海外の研究者の参入
 - マイケル・ディラン・フォスター
 - アダム・カバット(Adam Kabat)
 - 崔仁鶴(チェ インハク、최 인학)
- ▶ 国際間における研究交流
 - 「日中妖怪研究シンポジウム」(2018)
 - 「グローバル・コンテクストにおける妖怪の理論化と歴史化」(2023)

現在の妖怪研究の潮流

- ▶ 妖怪研究は近年になって大きな進歩を遂げた
- ▶ 妖怪について研究したいならば、今こそが始め時...なのかもしれない
- ▶ 妖怪の研究は「できるだけきまじめに、また存分に」しましょう



参考文献

- ▶ 伊藤慎吾・氷厘亭氷泉編『列伝体 妖怪学前史』勉誠出版、2021
- ▶ 伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・式水下流・永島大輝・幕張本郷猛・御田鋏・毛利恵太『広益体 妖怪普及史』勉誠社、2024
- ▶ 井上円了『妖怪学講義』大鐙閣、1923
- ▶ 京極夏彦『文庫版 妖怪の理 妖怪の檻』KADOKAWA、2017
- ▶ 小松和彦『妖怪学新考 妖怪からみる日本人の心』講談社、2015
- ▶ 小松和彦監修『怪異・妖怪学コレクション』全6巻、河出書房新社、2025
- ▶ 廣田龍平『妖怪の誕生 超自然と怪奇的自然の存在論的歴史人類学』青弓社、2022
- ▶ 廣田龍平『〈怪奇的で不思議なもの〉の人類学 妖怪研究の存在論的転回』青土社、2023
- ▶ 柳田國男、小松和彦校注『新訂 妖怪談義』KADOKAWA、2013

The background features a detailed, textured illustration of a dragon's head and upper body, rendered in a dark teal or blue-green color. The dragon has large, expressive eyes, a wide mouth showing sharp teeth, and prominent, curved horns. Its scales are intricately detailed with fine lines. In the top right corner, there is a solid red rectangular block.

発表は以上です